

国保だより

建設職能会館内
TEL 3260-6441
FAX 3260-7534

◆被保険者数

組合員	4,379人
家族	5,953人
計	10,332人

(12月末現在)

国保組合の国庫補助を見直し

所得水準に応じた補助へ

厚生労働省は、昨年10月27日、国保組合の平成21年度所得調査の結果を公表した。それによると全国165組合の1人当たり平均所得（21年度区市町村住民税課税標準額120年所得）は217万円と前回の16年度調査に比べ5.3%増加した。最も高い医師国保の平均所得は644万円、最も低い建設関係国保71万円の9倍に及んでいる。同省は、所得調査の結果並びに行政刷新会議の決定に基づく事業仕分けの意見等を踏まえて、平成24年度から国庫補助を、加入者の所得水準に応じた補助に改める方針で、所得の高かった国保組合の補助金は削減されることになる。

見直しの基本的考え方

厚生労働省は昨年5月、国の行政全般の見直し等を行うために設置された行政刷新会議の決定に基づき、同省の事業の再点検のために設置した行政事業レビューの公開プロセス（省内事業仕分け）の場に、国保組合への国庫補助を財政力に応じた形に見直す改革案を提示しました。その基本的考え方は

- ① 個々の国保組合の財政力を精査し、財政力に応じた補助を基本とする。
- ② 市町村国保や協会けんぽに対する国庫補助とのバランスを確保する。
- ③ 国保組合に対する不信感や不公平感を持たれないようにする。
- ④ 国保組合が果たしてきた役割を踏まえ、保険者

機能の強化に資するよう

一としていきます。

現行の国庫補助

現在、国保組合に対する国庫補助は財政安定化を図る観点から、165の全組合を対象に実施されており、医療給付費等の32%の定率補助が交付されたうえで、各組合の加入者の所得水準に応じて普通調整補助金が0から23%まで10段階で交付（表1）されており、当組合には、定率32%+普通調整13%の計45%が交付されています。

所得調査の結果

国は、各組合の加入者の所得水準を把握するため5年に一度所得調査を実施しており、平成21年度は前年に当たり、その調査結果が昨年10月公表されました。それによると、平成21年度区市町村住民税課税標準額（20年所得）は、全国平均で加入者一人当たり217万円と前回の16年度調査に比べ5.3%増加した。最も高い医師国保が644万円、最も低い建設関係国保が71万円の9倍に及んでいる。同省は、所得調査の結果並びに行政刷新会議の決定に基づく事業仕分けの意見等を踏まえて、平成24年度から国庫補助を、加入者の所得水準に応じた補助に改める方針で、所得の高かった国保組合の補助金は削減されることになる。

国庫補助の見直し

その後、昨年11月16日に開催された行政刷新会議ワーキンググループの事業仕分けで、所得水準の高い国保組合への国庫補助を見直しについて議論がなされた。その議論が、厚労省の見直し案として2案を提示、A案は、定率補助を5年かけて3段階の補助とするもの。国保組合は事業主負担が

見直し後の国庫補助

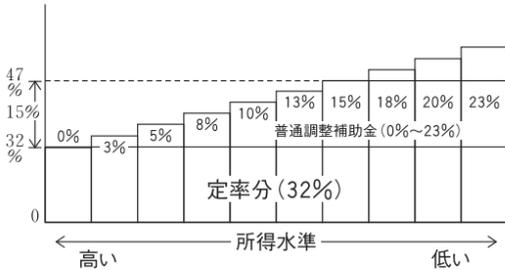
同省は、事業仕分けの結論を踏まえて、国保組合に対する国庫補助の見直しに着手、平成24年度から5年かけて段階的に定率補助を加入者の所得水準に応じた補助に改めることとし、補助率も5段階に区分、所得水準の高い組合に対する補助は廃止するとしています（表2）。

また、健康保険の適用除外承認を受けて国保組合に加入している者の定率補助は、平成9年8月以前に適用除外承認を受けて加入した者も含め、所得水準に応じて0から16.4%（協会けんぽの水準）の4段階の補助率に変更、これも平成24年度からの実施とし、5年間の激緩和措置を設けるとしています（表3）。

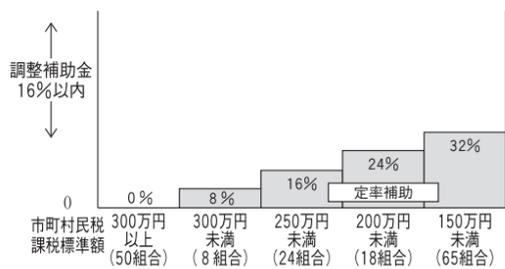
当組合の影響

今回の見直しに伴う当組合の影響ですが、まず、加入者の所得水準に応じて定率32%補助を見直すことについては、国は、区市町村住民税課税標準額が150万円未満の組合には定率32%補助を継続することとしており、当組合の場合、前述のとおり、平成21年度の所得調査の結果、加入者一人当たり118万円でしたので、現行補助率の定率32%

(表1) [現行の補助制度]



(表2) [改正後の補助制度]



(表3) 国庫補助金の定率補助率(本人・家族)

加入時期	平成9年8月以前の加入者		平成9年9月以降の加入者	
	本来国保加入	本来健保加入(適用除外承認者)	本来国保加入	本来健保加入(適用除外承認者)
補助率	現行	32%	32%	13% (後期支援金、介護納付金は16.4%)
	改正後	0% 16% 32%	8% 24%	0% 8% 16% 16.4%

(備考)改正後の赤字は、当組合の加入者に適用される補助率(見込)

次に、今回の見直しで当組合に大きな影響を与えるのが、健保適用除外承認を受けた加入者の補助率が協会けんぽの補助率16.4%に統一されることです。現在、当組合の被保険者のうち健保適用除外承認を受けた加入者の割合は48%を占めており、その内訳は、平成9年8月以前の加入者が33%、同年9月以後の加入者が15%で、この方々に対する現行の補助率は、前述のとおり、前者には定率32%+普通調整13%の計45%、後者には、定率13%+普通調整13%の計26%となっていますが、見直し後の補助率は、前者のいずれも定率16.4%+普通調整13%の計29.4%となる見込みです。この結果、今回の見直しに伴う当組合の削減額は、試算では単年度ベースで約2億円と見込まれますが、国は、5年の激緩和措置を予定していることから、平成24年度の削減額は約4千万円と見込まれます。厚労省は、今春の通常国会へ国保法の改正法案を提出する予定ですが、関係団体等からは反対の声もあり、法案成立には曲折が予想されます。いずれにしても当組合の財政状況は、今後、厳しくなることが考えられます。

- | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|--|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| <p>代表者 黒川 修</p> <p>首都圏建築組合</p> | <p>代表者 安東 久子</p> <p>世田谷中小建設業協会</p> | <p>代表者 柳田 孝光</p> <p>東京都豊工業協同組合</p> | <p>代表者 石井庄四郎</p> <p>京浜工業塗装協同組合</p> | <p>代表者 黒田 國男</p> <p>練馬建設事業組合</p> | <p>代表者 植島 清春</p> <p>一般社団法人西部建設厚生協会</p> | <p>代表者 池谷 宗一</p> <p>江東板金組合</p> | <p>代表者 下田 均</p> <p>田無保谷建設組合</p> | <p>代表者 南波 行雄</p> <p>城南建設組合</p> | <p>代表者 植松 勝己</p> <p>東調布建設組合</p> | <p>代表者 川上 廣男</p> <p>小岩建築協同組合</p> | <p>代表者 渡辺 真史</p> <p>東京造園業組合</p> | <p>代表者 吉田 昭二</p> <p>代々木建設組合</p> |
|--------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|--|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|